武漢のコロナウィルス生物テロ攻撃は、中国版９・11、同じ犯行者による

この市で行われた慎重な生物テロの典型、シオニスト・アングロ-アメリカン枢軸の要員によって支払われ、中国の実行による

【訳者 Greatchain】

通常のメディア記事やニュースは、その犯罪の可能性を、当然のように問題にしない。しかしインターネットでは、それが当然のように問題になっている。その中でも、この SOTN の記事は、最も調査の行き届いた、最も詳しく、かつ説得力のあるものではないだろうか？このサイトの能力に、私はいつも脱帽している。

SOTN (State of the Nation)
February 9, 2020

生物兵器専門家：
「コロナウィルスは、これまでに経験のないスーパー生物兵器だ」

肝要事項：――武漢の生物攻撃は、中国本土で進行中の、一連の生物攻撃の一つにすぎないように見える。このシオニスト・アングロ-アメリカンの生物テロ作戦は、この国家的流行病が、武漢で密かに起こされた、ただ一つの犯行であるかのように見せかけているが、実は、同じような伝播の方法を用いて、他の中国の都市にも、密かに拡散されている。この兵器化されたコロナウィルスの散布のベクトルが、急速な拡大率で、世界的にマッピングされている。そこから、全く同じような、多数の伝播の方法

が取られていて、それが狡猾に実行されて、医療調査を混乱させるだけでなく、発見をも困難にしているものと思われる。

武漢のコロナウィルスの流行について、よく事情がわかるものとして、SOTN の次の暴露的な抜き書き部分が、急速に広がる背後の事情の、急所をよく物語っている。

> 「アメリカの操る香港の抗議運動、中国に対するアメリカの関税体制、ファーウェーで働く国家に対する経済制裁の脅威、CIA が火をつけた、ムスリムの関わる新疆ウイグル紛争、台湾海峡での米海軍艦船の挑発的航行、ファーウェーの CFO の透明な政治訴訟、もう一つの DARPA の生命操作ウィルスによる、中国の豚農場の破壊、等々——こうしたことを考えてみるなら、中国政府が 2018 年以来、ひどい破壊行為を受けてきたことがわかる。」（典拠：「**武漢コロナウィルス流行生命操作：背後に誰が、なぜ今、なぜ中国か？**」http://stateofthenation.co/?p=5231

上にあげたような、理解のポイントを考えてみると、常に増加しつつある、この一連の透明な生物学的攻撃の、真の意図と、タイミングと、性質が、はるかにより正確に理解できるであろう。

中国経済の意図的な破壊

中国は、長年、世界の国家共同体を通じて、経済的発展と通商の拡大を、真剣に求め続けてきた。これらのさまざまなビジネスの、発展の追及は、過去数十年間、強化され続けている。「一帯一路」の主導は、いかに中国が真剣であるかの一例にすぎず、彼らは、アメリカの犯す、（そして、さらに公然と英国の演ずる）絶えざる経済的破壊と金融テロリズムから解放された、新しい「グローバル経済と金融システム」をつくり出そうとしてきた。

この新しい、急速に現れてきた「グローバル経済と金融システム」は、アングロ・アメリカン枢軸（AAA）を構成する多くの西側権力による支配なしに、いま建設されつつある。英米の体制は、特に排除されつつある。これは、かつての「万能のドル」が、この広大な中・露・インドのプロジェクトの中では、グローバル経済や金融秩序を作り直す余地を、失ったことを意味する。

これはまた、「万能のドル」が、世界の準備通貨としての地位を、失うことを意味する。これは西側諸国にとって非常に重大なことである。実を言えば、**それは今より大きくなることはない**。もし西洋が、ロンドンやニューヨーク市に支配されない、活動の場を譲ることに合意しなければ、彼らのグリーンバック（米国紙幣）は不吉な運命となるだろう。ついでに言うと、事態の大きな意味からいえば、**それはカルマ（業）と呼ばれるものだ**。

東側諸国によって注意深くコントロールされた、アメリカ石油ドルの打ち壊しから考えるなら――それは9・11以来、純粋に自己保全のために企てられた――米、英、イスラエル、その他、AAAに繋がる諸国家は、自暴自棄になっている――完全な自暴自棄に！

> **キーポイント：**――アングロ・アメリカン枢軸を構成するすべての国家は、これまで自分たちのワゴンを、アメリカの石油ドルに繋いできた。そのワゴン列車が、万一、アメリカ・ドルの崩壊と共に崖に落ちるとしたら、国際的秩序の大半は、一日で、一夜にして変わるだろう。イスラエルのような、ならず者、犯罪者、アパルトヘイト国家は、自分たちの市民と、絶大な利益を保護してくれる米軍がいなかったら、完全に無防備になるであろう。したがって、テルアビブの失うものは限りなく大きく、彼らはそれを知っている。大ブリテンもまた、アメリカなしでは何もできないだろう。このことから、我々は、この大規模な流行病が、あらゆる AAA 国のシオニストを糾合し、西側の覇権を守り、RIICS 経済連盟を破壊するための、無謀な試みであることがわかる。(RIICS=Russia, India, Iran, China, South Africa)

生物戦争 2020

よその国を閉鎖するためには、生物戦争という、最も災害の大きい戦争を仕掛ける以上に、有効な方法はない。これが武漢の生物攻撃のように、完全なタイミングで実行されたとき…、この生物兵器の解放のように、完全な場所が選ばれたとき…、武漢のコロナウィルスがそうだったように、それが最も有効な、生物操作による感染源だったとき…、すべての地獄の扉が切って落とされる。…そして目標とされた国家は、作為による、大規模な麻痺状態を作り出す。

> イラクの政治アナリスト Sabah Al-Akili: このコロナウィルスは、2015年、米政府高官によって中国にばら撒かれた。これは中国に対する生物戦争の一部である。

中東は真実を知っている＝シオニズム

上のスクリーンショットは、この記事から取ったもの：**「このコロナウィルスは、中国に対してアメリカが仕掛けた生物戦争の一部である」――MEMRI**
http://stateofthenation.co/?p=5231

この惑星の他のどんな地域にも増して、中東の全域に及ぶ、科学研究者や、調査ジャーナリストたちこそが、「誰が」、また「なぜ」、この生物操作によるコロナウィルス大流行の背後にいるのかの問題を、十分に知っていると思われる。

特に、「誰のためなのか？」という肝心な問題を、彼らが知っているのは、歴史に例のないほどに中国を孤立させ、荒廃させた、この大規模な流行からである。

たとえば、上に言及した鋭い洞察力と、驚くほど解明力のある、MEMRI の記事から抜き書きしてみる：——

エジプト人ライター：アメリカは、中国の経済と評判を傷つけるために、ウィルスをばら撒いた

エジプトの新しいウェブサイト Vetogate.com では、エジプト人ジャーナリスト Ahmad Rif'at が、なぜ、アメリカは疫病の中心地として、中国の都市、武漢を選んだのかを説明している——「アメリカの（武漢）工場は、あらゆる種類のウィルスとバクテリアを、毒性の強い天然痘ウィルスや、bubonic plague（腺ペスト）ウィルスから、近年我々の見たすべてのウィルス——狂牛病や豚インフルエンザなど——に至るまで、真っ先に作成している。今、コロナにかかっている都市、武漢は工業都市だが、それにもかかわらず、ここは上海と広州市に次いで、中国で 8 番目に豊かな都市である。」

広州市、北京、天津市、香港は、この国の主要都市である。（主要都市の）リストの最後にある、その土地柄は、それ（武漢）をアメリカの犯罪にとって、便利な場所にならしめている。…なぜなら、それは注目の的になる都市でなく、その健康衛生レベルは、確かに、より大きくより重要な都市よりも、下位にあるからである。

「ウィルスを急速に広がらせるために必要なすべては、通常の注射器か何か別の方法を使って、それを何かの袋から開放することである。しかし本当に興味ある事実は、武漢に滞在していた多くのアメリカ人が、直ちに、慌ただしく出発する決心をしたことだ。これはアメリカのニュース・チャンネルによく現れている。特に CNN のリポーターがそうで、彼らは誰も、［病気に］罹ってはいなかった。彼［CNN 記者］が何をしていたのか、我々は知らない。彼はこの出来事を報告しにきたのだろうか？　もしそうなら、なぜ彼はこれほど急激に立ち去ったのだろうか？　彼はその前［流行の勃発前］に到着していたのだろうか？　もしそうなら、彼は何の理由で、コロナウィルス危機の始まる前に、そこへ行ったのだろうか？…

「この戦争は、中国を困らせ、悩ませて、危機管理や医療費に何十億ドルものカネをかけさせようと、意図されているだけではない——ちなみに、それはイスラエルの会社で製造されるだろう。アメリカの狙いは、世界に対し、そして特に、中国自身に対

して、プロパガンダ戦争の一部として、中国の威信と地位を傷つけることで、中国はまだ遅れた国なのだ、その市民は、コウモリのスープを食べ、病気と疫病を世界の残りの人々に輸出しているのだと、宣伝するためである！」

「誰のためになるのだ？」という問題は、結局、シオニズムが常に勝ち、すべての者が常に負けるということである。中国とロシアは共に負ける。イランも負ける。アメリカとイギリスも、勝者のように見えるかもしれないが、究極的には負けるだろう。インドとパキスタンも負ける。中東全体も、イスラエルを除いて再び負けるだろう。この流行病が惑星全体で、どのように進化するかを見ていればよい。そうすれば、誰が本当に、彼ら自身の安全地帯から、それを始めたかがわかるだろう。

コロナウィルスと生物テロリズム：
2020 年に単純化される病気

コロナウィルス生物テロ心理作戦

生物学的攻撃に関する限り、それは実は、**コロナウィルス生物テロ作戦**以上に大きくなることはない。その現実があるために、非常に組織化され隠ぺいされた多国籍の陰謀を暴くこともまた、非常に難しいものになっている。

明らかに、この生物攻撃の背後にある勢力は、主流メディアを全面的にコントロールしている、全く同じ国家の役者たちである。もちろん、今、あらゆる人々が、CIA の「モッキングバード・メディア」を、誰が所有し、経営しているかを知っている。そこでは、主流メディア・プロパガンダのあらゆる大手組織が、バージニア州ラングレーの「ザ・カンパニー」の本部で、呪術のようにでっちあげる、あの同じフェイク・ニュースと、ニセ物語を繰り返している。http://themillenniumreport.com/?s=mockingbird+media

「中央情報局」CIA は、世界中の情報部仲間で The Company と呼ばれている。

これがまさに、「権力当局」が、人類に対する際限のない心理作戦を展開するやり方である。彼らは、自分の望むどんな物語でも創り出すことができ、あるいは、どんな物語でも、ニューヨーク時間で消すことができる。これは、企業メディアの全体が、完全に「国際銀行業カルテル」によって支配されているからである。同じ銀行屋どもが、今日のアメリカの、あらゆる世界を、鉄の腕力によって支配している。
http://themillenniumreport.com/?s=mockingbird+media　このように：——

アメリカの破壊の背後にある隠れた権力

http://themillenniumreport.com/2019/12/the-hidden-powers-behind-the-destruction-of-america/